

令和 8 年度 第 2 回 宇美町総合計画審議会 議事要旨

1. 会議名

第 2 回宇美町総合計画審議会

2. 開催日時

令和 8 年 7 月 2 日（木） 14 時 00 分～15 時 45 分

3. 開催場所

大会議室（左）

4. 出席者

委員 11 名、事務局 4 名

5. 議題

- (1) 前期実践計画の評価検証について
- (2) 後期実践計画重点方針（案）について
- (3) その他

6. 議事要旨

- (1) 前期実践計画の評価検証について

【事務局説明】

前期実践計画の各施策の KPI(指標)について、目標値と実績値を比較し評価検証を行った。項目数が多く数字だけでは分かりにくいことから、レーダーチャートを作成し、分野ごとの評価状況を視覚的に示した。指標によっては目標設定そのものに無理があった可能性もあり、後期実践計画では担当課や町民が取り組めるような適切な目標値を設定する必要がある。

【主な質疑・意見】

- 学力に関する指標で D 評価が続いている。宇美町の子どもたちの学力は全国平均を下回っており、子育て世帯や転入を検討する世帯にとっても大きな関心事であり、何らかの対策が必要である。
- 地域コミュニティを中心とした防災の取組は地域に浸透しており評価できる。一方、青色パトロールカーの年間巡回件数については、現状を踏まえた指標の見直しが必要ではないか。
- 燃えるごみと資源ごみの評価の見方が分かりにくい。資源ごみの減少が分別の問題に

よるものか、民間リサイクルなど別のルートに流れているのか、ごみ全体の量が減っているのかについて分析が必要である。また、ごみの分別については出前講座などを活用し、小学生の頃から楽しく学べる機会を設けるとよい。

- うみっこ健診について、継続受診率や保健指導率だけでなく、受診率全体を指標に加える必要があるのではないか。宇美町は後期高齢者医療費が高い状況にあり、子どもの頃から健康意識を高める取組が将来的な医療費抑制にもつながる。予防に重点を置いた施策が必要である。
- 個人版・企業版ふるさと納税ともに大きく伸びており、職員の努力を評価する。今後は伸びた実績をどのように維持し、さらに伸ばしていくかが課題である。
- レーダーチャートは非常に分かりやすく、各課にも示し、目標達成に向けた意識づけを行えるとよい。
- 基本目標ごとに縦割りで評価するだけでなく、学力、不登校、家庭環境、子育て支援、健康づくりなど、相互に関連する項目を横断的に見ることが重要である。生活者・町民目線で複数の課題がどのようにつながっているのかを把握し、後期計画に反映する必要がある。
- 社会増をどのように確保していくかが重要であり、人口は町の施策の成果を分かりやすく示す指標の一つである。投票率なども町民の関心や地域への関わりを示す指標として参考になるのではないか。

(事務局)

- 前期計画では全国平均を上回る 103 程度を目標値に設定していたため、もともと基準値が低い中で高い目標を掲げた結果、評価が低く見えている面もある。後期計画における目標値の設定が重要である。
- 後期計画では重点的な指標について事業計画にも反映させ、分かりやすく整理したい。

(2) 後期実践計画重点方針(案)について

【事務局説明】

後期実践計画においても重点方針を定める。重点方針は、将来像「このまちが、いい。私たちの誇り 宇美」を実現するため、特に重点的・分野横断的に取り組む方向性を定めるものである。今回の案では以下の3分野を重点方針として設定し、継続的に強化していく。

重点方針1 「子育て世代・こども・若者が選ぶまちづくり」

「子育てするなら宇美町で」「自分を生かすなら宇美町で」と、子育て世代や子ども・若者が選ぶまちを目指す。切れ目のない子育て支援体制に加え、すべての子どもが学び、芸術・スポーツ・相談にワンストップでアクセスできる環境整備や、学校と地域が連携した多様な体験・運動・学習機会の創出を強力に推進する。前期の「子育てしやすいまちの実現」から、

後期では子育て分野を町の最重要政策として位置づけ、中学生・高校生・若者の視点まで広げることを意図している。

重点方針2 「人とまちがつながるシティプロモーションの推進」

宇美町と関わりたい、選ばれるまちを目指し、町内外に向けた取組を強化し、つながりを創出するシティプロモーションを推進する。町内に向けてはシビックプライドの醸成、町外に向けてはふるさと納税をはじめとした寄附を通じた支援や、町民と外部人材が交流する機会の創出を進める。後期では「人と町がつながる」という表現で関係人口の増加を明確に示す。

重点方針3 「DXで進める便利でやさしいまちづくり」

誰もが取り残されることなく、便利で快適に暮らせる宇美町を目指し、デジタルの力を活用した行政サービス改革を推進する。DXを単なる事務の効率化にとどめるのではなく、町民が「便利になった」「身近になった」と実感できることを重視し、デジタル技術に不慣れな方や高齢者にも配慮した温かみのあるデジタル社会を実現する。前期の「自治体DXの推進」から、DXによってどのようなまちづくりを目指すのかを示す表現に変更した。

【主な質疑・意見】

- 重点方針案は非常によくあった。「子育てするなら宇美町」「子ども・若者が選ぶまち」というメッセージを明確に打ち出した点がよい。子育て施策とシティプロモーションを連携させ、宇美町の取組を町外へ積極的に発信していくことが重要である。
- 関係人口については、用語の意味やどのように数値化するのかを説明する必要がある。
- 返礼品だけで寄附を増やすには限界があるため、シティプロモーションを通じて町に関心を持ってもらい、その結果としてふるさと納税の増額につなげる視点が重要である。
- 同窓会などで町の名刺や情報を見せると関心を示す人もおり、町外に住んでいても宇美町に関心を持ち続けてもらうことが重要である。
- 「書かない窓口」の実現に期待する。「温かみのあるデジタル社会」という表現について、利便性向上と高齢者等への配慮を両立する方向性として適切である。

（事務局）

- 総合戦略の中で宇美町として関係人口を定義しており、ふるさと納税の寄附者、SNS登録者などを含めて整理している。後期計画においても関係人口の定義を明記したい。
- マイナンバーカードなどを活用し申請書への記入負担を減らす「書かない窓口」の導入を進めている。また、予約システムなど、町民が役場に来なくても手続きや予約ができる仕組みについても検討している。

(3) その他

【主な質疑・意見】

- 外国人住民と地域をつなぐコーディネーターの存在が重要であり、自治会の中に外国人住民を支援する担当を置くことも考えられる。
- 子どもや若者への金融教育、生活設計に関する学びも、今後のまちづくりに関係する視点として考えられる。

(事務局)

- 現在の総合計画では外国人住民への配慮や支援について明確な記載はないが、国勢調査等の結果を踏まえると、今後重要な課題として検討する時期にきている。